

## ☆見学記 富岡製糸場 ☆ガトーフェスタハラダ

平成23年9月28日(水)

南雲 喜久枝

7:00 金沢文庫西口キッツスポーツスクエア前でまず29名が乗車して豪華(?)貸切りバス出発。横浜駅西口にて18名が加わり総勢47名(男性25女性22)(湘南鎌倉生涯現役の会からの参加者5名を含む)。満員のバスは、目をつむれば高校生バス旅行を想わせる華やかさで?関越自動車道—上信越自動車道—富岡IC—で、10:50富岡市営駐車場に到着。製糸場まで徒歩5分。



### 富岡製糸場

#### ☆概要

明治5年(1872年)明治政府が日本の近代化のために設置した最初の官営模範器械製糸工場

江戸時代末期に鎖国政策を変えてから、政府は外国と対等な立場を築くため貿易により外貨を獲得する道の一つとして 生糸の輸出振興を打ち出した。



そこでフランス人の技師 ポール・ブリユナ (Paul Brunat) を指導者として雇い入れ、フランスから操糸機等を輸入。日本では初代所長になる尾高惇忠が中心となり、ヨーロッパの先駆的な技術と日本独自の工法を融合させ、10月操業開始にこぎつけた。

当時は世界でも有数の規模で、日本全国から数百人の工女が集められた。設置当初は民部省、次に大蔵省、内務省、農商務省と所轄が移る。明治26年官営工業の払い下げ令により三井家に払い下げ、35年に横浜の生糸商原合名会社に、昭和14年には片倉製糸紡績会社の所有となり、62年3月まで約115年間操業を続けた。

平成17年10月片倉工業より富岡市に管理が移され、近代産業のシンボルとしてこれまで大切に保存されている。明治創業以来の歴史的な建物等は 旧富岡製糸場として平成18年7月に重要文化財に指定された。

19年1月には、富岡製糸場と絹産業遺産群(The Tomioka Silk Mill and Related Heritage)として ユネスコ世界遺産暫定リストに追加指定された。

## ☆建造物

設計は 横須賀製鉄所の船工、製図職工のフランス人 オーギュスト・バスチャン。実際の建設は日本人の大工が請け負った。中心となる木材は主に官林で伐採、近くの妙義山からも大きな杉等を調達。窓ガラス、鉄のサッシ、蝶番等は当時の日本では製作が難しかったため、ヨーロッパを中心に輸入された。大量のレンガはブリュナの指導で 日本の瓦職人が笹森稻荷神社東側（現甘楽町福島）に窯を築いて作った。主要な建物は木材で骨組みを造り、その間にレンガ壁を積む 木骨レンガ造りという当時の日本では珍しい工法で造られた。

## ☆見学コース

まず通用門のアーチ 「明治五年」のキーストーンは富岡製糸場のシンボリック的存在。アーチをくぐると広い敷地と見事な建築物が目に入る。敷地・51,596㎡（15,608坪）「東西およそ200m 南北およそ300mの長方形を想像するとわかりやすいですよ」とダレカサンが教えてくれた。

### 1 繭倉庫

二棟あり、東置繭所（ひがしおきまゆじょ）と 西置繭所といわれていた。正面にあるのが西繭倉庫（長さ104.4m・幅12.3m・高さ14.8m）外観見学。東繭倉庫は西倉庫と同じ大きさで一階だけ入ることができ、展示品、ビデオコーナー、売店などがあり、展示物などからも製糸場のあらしを学ぶことができる。

### 2 繰糸場

蚕の繭から生糸をつくる作業所。ズラ〜〜と当時のままの機械が並んでいる。全長140m、幅12.3m、高さ12.1mで、世界最大、建物の中に入って全景はみられないが、半分位見学できる。



### 3 ブリュナ館

指導者ブリュナの家族、家政婦達が住んでいた家。モダンな造りなので中を覗いてみたかったが、外観見学のみ。高床で回廊風のベランダを持つ開放感あるオシャレな家である。

### 4 女工館

女工達に 器械による糸繰りの技術を指導したフランス人女性教師の住居。ブリュナ館と同じ木骨レンガ造りで、ベランダの天井には板が格子状に組み立てられており当時の日本建築にはない特徴がみられる。

このほか敷地内には、生糸や機械の検査を担当したフランス人男性技術者の検査人館や鉄水槽、レンガ積排水溝、などがある。

## ★なぜ富岡に工場を設置したのか・・・ガイド 市川さんの説明

- 1 富岡付近は養蚕が盛んで、生糸の原料である繭を確保できる
- 2 土地が広く、製糸に必要な水が既存の用水を使って得られる
- 3 燃料の石炭が、近くの高崎、吉井で採れる
- 4 外国人指導の工場建設に地元の人達の同意がえられた



## ☆富岡製糸工場の価値

- 1 官営による産業育成
- 2 海外からの先端技術導入・日仏交流の拠点
- 3 機械製糸業を発展させた模範工場
- 4 日本の製糸業を象徴する工場、等があげられている。

それらは「アジアにおける産業近代化の先駆けであり、西欧の産業革命が最初にわが国に及んだことを示す貴重な文化遺産（産業遺産）であり、世界遺産としてふさわしいものである」といわれている。少しでも早く推薦が叶うことを願うばかりだ。

(参考資料・・・製糸場内売店より『富岡製糸場』・各種パンフレット・「富岡製糸場・世界遺産推進ホームページ」等)

♪ 蛇足ながら チョットと気になったことを調べてみました

## ♪ 当時の「工女」と『女工哀史』の女工の違いは？

明治5年政府は工場で働く工女の募集をおこなったが、その頃の人々に「異人に生き血をしぼりとられる」という噂が広まり、人があまり集まらなかった。そこで各府県に人数を割り当て、士族の娘達が集められた。

信州松代の士族の娘 和田（横田）英は、富岡製糸場での生活をのちに『富岡日記』として書きのこした。

「富岡製糸場の御門前に参りましたときは、実に夢かと思えますほど驚きました。生まれましてレンガ造りの建物など まれに錦絵位をみるばかり、それを目前に見ることでありますから、無理もなきことかと存じます」。この日記でもわかるように労働条件もかなりよかったと考えられる。

「生き血を飲まれる・・・」の噂とは、当時彼らが赤ワインを飲んでいたため、ワインを血と思い込んだとの理由には思わず：^～^：

『女工哀史』（細井和喜蔵作）1897～1925

14歳から小僧となって15年間工場の下級職工として働いた経験と見聞に基いて書いた、紡績工場で働く女工の生活記録。

中小の私営工場で過酷な条件で働かされた女工達の悲惨さが描かれている。映画の『ああ 野麦峠』では、貧しい家の娘達が甘い言葉に騙され、又借金のカタに無理やり野麦峠を越えて工場に連れていかれ、劣悪な環境でいかに酷い仕打ちをうけてきたかを訴えている。

富岡製糸場の工女達が、国と家の名誉のためにという志を持ち、自主的に働いていた姿とは大きくかけはなれているようだ。

## ♪ 現在 富岡では絹製品を作っているの？

日本の繭生産は1930年の40万トン进行ピークに381トンに落ち込んでしまった。原因として、海外からの低価格生糸や絹製品の流入、後継者不足、日本人の服装が洋風にと変わったので、和服など絹需要の低下が考えられている。

富岡市の養蚕農家は現在18戸、それでは富岡製糸場の世界遺産登録が叶ったとしても、蚕糸業のシステムが生き続けていることが不可欠との考えから**富岡シルクブランド協議会**が平成20年5月に設立された。国から新たに導入した蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業を活用しながら、養蚕農家や絹加工業者等がグループを形成し、絹製品の開発販売にとりくんでいる。商品としては、・ストール・シルクトリートメントソープ・繭パフ等々

## ♪ 横浜シルクセンターとは関係があるの？

横浜シルクセンターは1959年横浜開港100年記念として開館。 貿易、観光

の振興、特に生糸、絹製品貿易の振興発展を図ることを目的としている財団法人シルクセンター国際貿易観光会館。

ここでは「絹ができるまで」の学習ゾーンがあり、蚕一繭一生糸が作られる過程が学べる。伝統的な美しい和服の展示もある。売店ではスカーフ・ネクタイ・ハンカチなどを販売している。

### ❖見学記にもどって

12:20 製糸工場を出発して12:50 旅の駅 下仁田こんにやくセンターへ

下仁田は、ねぎの産地としても有名だが、300m~600mの中山間から山間地帯は蒟蒻の栽培にも適しているようだ。

さてここで **こんにやく御膳**の昼食・・・はじめて見るメニューに興味津々なるほどナルホドこんにやくづくめ！

- ・海苔巻き（鉄火巻きのみぐろの代わりにこんにやく）・さしみ三種盛り合わせ・きんぴら・白和え・味噌田楽・串揚げ（串かつ風）・角切りの照り焼き・味噌漬け・酢のもの、み～んなこんにやく！

ほかにご飯・野菜の煮物・卵焼き・ポテトサラダ・山菜糸こん入りうどん

- ・デザートの小豆餡がのっていた白玉団子こそ本物の白玉かと思いきや、これもなんとこんにやく！ まことにお見事！

戦前戦中戦後を生きてきた私には、食べ物を残すことに罪悪感があったが、とても全部は食べ切れなかった（スママセ～ン）しかし味付けはよく工夫されていた～～満腹になったところで、13:50 妙義山へ

### ❖妙義山

群馬県下仁田町、富岡市、安中市にまたがる標高1,104mの山

赤城山、榛名山と共に上州三山の一つ。

白雲山、金洞山、金鶏山、相馬岳、御岳、丁須ノ頭などをあわせた総称

### ❖妙義神社

創建537年

主祭神は・日本武尊・豊受大神・菅原道真公・権大納言長親卿

いざ 妙義神社へ！

参道は急な坂道と超急な石段・・・やがて大きな朱塗りの総門。両側には立派な仁王様。右側に高さ10mほどの美しい石垣。更に進むと青銅の大鳥居（1668年県重要文化財）鳥居をくぐると広い境内。手水舎で作法を覚えてもらい、手を清め



て右側にある**波己曾神社**（はこそじんじゃ）に参拝。

付近には 石段を覆うような杉の巨木。これまでやっと 87 段登ったが、更に妙義神社本殿にと続く険しい石段が 100 段以上続く・・・。しかし何と「ここから先 立ち入り禁止」の標識！ずっと膝がヘナヘナと笑っぱなしの私は内心 ホッ！ 2007 年の台風による土砂崩れで大きな被害があったため 現在修復中である。そのため今は 波己曾神殿を仮殿と定めているそうである。

さて妙義山に登ったつもりになってルンルン気分  
で下山。15:10 最後のコースに向かって出発。



## ✿ ガトーフェスタハラダ

創業 1901 年 和洋菓子の老舗

「希望と幸福」をコンセプトに高品質なお菓子作りを目指している。4,000 坪の広大な敷地にギリシャ建築をデザインした 70 本の列柱が立ち並ぶ壮麗な建物は、工場というより宮殿のようだ。

111 年間和洋菓子を作り続けてきたが、昭和 23 年ころの配給パン時代には製パンにも着手、今ではフランスパンより作ったラスクが人気商品とか。

### ✿ 見学コース

- 1、ビデオルームにて、小麦粉からラスクなどお菓子が出来上がるまでを見る
- 2、エレベーターで 4F 行き、3F にかけてガラス越しに実際の製造過程を見学
- 3、案内人による お菓子の種類、特徴についての説明

今この工場では 40 種類を製造しているそうで、そのうちの一つ、ラスクを全員に試食させてくれた。

この建物には・メインロビー・多目的ホール・工場見学ギャラリーなどもあり、美術展・コンサート等、地域貢献の一環として色々な文化事業も行っている。また 3 月 11 日の大震災によせて 2,000 万円の義援金と、ラスク 4 万枚、マスク 16 万枚の義援物資を寄贈されている・

最後は「シャトー・デュ・ボヌール」（お菓子の館）でおみやげを購入。沢山のおみやげが加わって 16:50 ハラダを出発。

本庄児玉 IC—横浜駅西口—金沢文庫 （交通渋滞のため少し遅れたが 20:30 無事に到着）



帰りのバスではビール・日本酒・ジュース・おつまみの配給もあり、至れり尽せり

のサービスに感激しました。いつもながら 宮原さんを中心にいろいろとお世話をくださいました方々 本当にありがとうございました。さわやかな秋空のもと、心豊かな一日を過ごすことができました。

富士急バスのドライバー太田さん、ガイド古川さん、横浜市交通局協力会の添乗員佐藤さん達の心配りも嬉しく思いました。特にこの度は、知識欲、食欲共に刺激され、山登り？のオマケまでついた素晴らしい見学会でした。

(※ 写真提供は池田健雄さん、林 洋さん)

### 湘南鎌倉生涯現役の会（湘現会）代表 井森 亮さん より

今回は色々とお世話になり有難うございました。幸い天候にも恵まれ楽しい一日となりました。湘現会からの参加者も皆さん満足気でした。今後とも宜しくお願い致します。かなざわ会の皆さんにも宜しくお伝え下さい。